

大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加しました

政府主催の南海トラフ地震を想定した医療活動訓練に、当院から DMAT1 隊が参加しました。

9月30日（土）午前6時神戸病院を徳島県海部病院に向けて陸路を出発しました。

眠すぎる・・・順調に走行、チームメンバーもはじめてとは思えない一体感がすでにできていました。予定の参集時間に無事到着、本部に到着報告をした後、情報収集しながら待機場所で活動指示を待つことに。しばらくして指示があり、海南病院での病院支援（搬送支援）とのこと。

ただ、訓練想定では海南部の道路は通行できず、内陸の山間部からのアプローチとなるが、ここからが本当の災害対応訓練いや災害となりました。

本部で念入りに山間部のルートを確認、グーグルマップで見るとこれ本当に通れるのかと疑心暗鬼になる道でしたが地元の本部員からの情報を信じ進むことに。幸い同ミッションは兵庫医大のチームにも指示されていたので、一緒に連帯で移動することとしました。



しばらくすると狭くガードレールもない、すぐ横は崖の山道に。さらに携帯電話は通信不能エリアに突入、努めて平静に運転していましたが、落ちたら確実に死ぬなと思っていました。ますます道が狭くなり、本当に土砂崩れが発生している箇所もあり、訓練と現実の災害が入り混じった状態に。道路には明らかに色んなところに車が当たった形跡が多数。私達の車は救急車だったので車体が長く、死ぬよりも車を擦る方がいいとみんなに了承を得て運転しました。

ただ、電話も通じないので本当に遭難している感じで、少し開けたエリアで衛星電話を立てて現在状況を本部に発信しました。携帯電話の通信エリアに入ると留守電や着信がたくさんあり、本部も連絡が付かないので心配してくれていました。

結局、海南病院には3時間ほどかけて到着、すでに病院訓練は終了していましたが温かく迎えいただき到着の証拠写真を一枚カシャ。その後、通常の海南部の道で帰ると15分で本部に戻れました。本部では心配と謝りの言葉をいただき、どうやら私達が通った山間部のルートは地元の方でも通らないような獣道だったようです。（通れると言ったのは誰だ――）ただ、実災害だと海南部の道を通ることは難しいと思うので、いい経験にはなりました。それでもあの山間部のルートは通ってはいけません。【業務調整員】

